

没後1周年

SEIICHI
MORIMURA

木村

誠一展

男の肖像

生きた

小説を



2024
10/19(土)
→ 12/22(日)

町田市民文学館ことばらんど

〒194-0013 東京都町田市原町田 4-16-17 TEL:042-739-3420 FAX:042-739-3421

JR 横浜線町田駅ターミナル口から徒歩8分 小田急線町田駅東口から徒歩12分

【休館日】毎週月曜日(11月4日(月)は開館)、
11月14日(木)、12月12日(木)

【観覧時間】10時～17時

【観覧料】大人600円 大・高校生300円

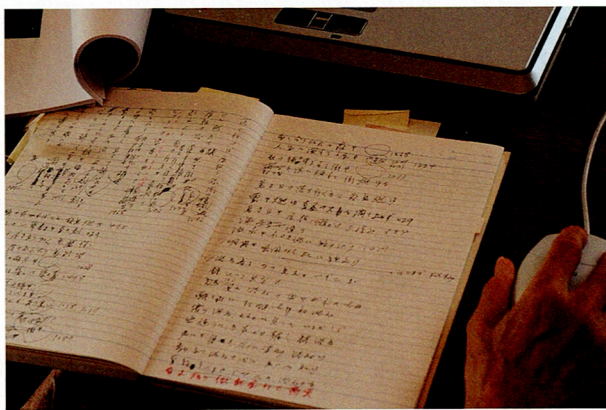
※中学生以下無料 ※ただし、10月19日(土)、10月27日(日)、11月3日(日)は観覧無料

【協力】公益財団法人 角川文化振興財団、幻冬舎

*最新情報は町田市ホームページでご確認ください。



私は都会的なものが好きだ。
何故ならそこは、ひとりひとりがみな孤独で、荒廃しているようで美しく、
虚しいようでありながら、ダイナミックなエネルギーに充ちているからだ。



自宅のパソコンに向かって



書斎での執筆風景 2009年

没後1周年

木村誠一

誠一展

ミステリー小説家を
生きた

男の肖像

1970年代まで、日本の文壇の主流を占めていたのは「純文学」であり、ミステリやSFなど娯楽性の高い作品は「大衆文学」として軽んじられてきました。それから半世紀を経た現在、大衆文学は「エンタメ」と呼ばれ、今や日本の文学・出版界の中心を成しているといつて過言ではありません。

こうした戦後ミステリの黎明期にデビューし、驚異の執筆ペースと圧倒的な人気によりミステリの地位を押し上げたのが森村誠一でした。大学時代は北アルプスを中心とした登山に明け暮れ、その後、ホテルマンを約10年経験してから作家となった森村にとって「本は売れなければ意味がない」ものであり、時世を反映し、出版社や編集者の需に応え、何より読者の期待に応じて生み出した400タイトルもの作品は、まさに「作家の証明」でした。

本展は、森村没後1周年に合わせて開催する回顧展です。森村が作品の中で描いた魅力的な登場人物に焦点を当て、社会の歪みや人間の欲によって引き起こされる事件に向き合う姿に迫ります。また、作家は時代を映す存在だと語り、自らの老いまでも赤裸々に綴り、亡くなる直前まで「小説家」でありたいと願ったその実像に迫ります。

SEIICHI
MORIMURA

森村誠一 [1933—2023]

小説家、埼玉県熊谷市出身



青山学院大学文学部英米文学科卒。大学卒業後はホテルマンとして勤務する傍ら、サラリーマン向けのエッセイを執筆したことを契機に小説家を志す。1969年、初めて手掛けた推理小説『高層の死角』で第15回江戸川乱歩賞を、次いで73年には『腐蝕の構造』で第26回日本推理作家協会賞を受賞した。高度経済成長期を背景に、大きな野望を成し遂げようとする冷たく計算的なエリートを主人公とした都会的な作風で人気を得る。76年、角川春樹の依頼で執筆した『人間の証明』は映像化の影響もあり770万部を超えるベストセラーとなった。83年以降は『忠臣蔵』など歴史・時代小説も手掛け、2004年に第7回日本ミステリー文学大賞、2011年には時代小説『悪道』で第45回吉川英治文学賞を受賞。99年以降、「小説講座山村教室」の名譽塾長として小説家を目指す後進の指導にも尽力した。趣味の散歩と写真に俳句を組み合わせた「写真俳句」を提唱し、「新・おくのほそ道写真俳句紀行」(2008年〜)をスタートさせるなど幅広く活躍。2023年7月24日、90年の生涯を閉じた。



ホテル前で待つ 1970年代

EVENT

森村誠一展関連イベント

※イベントの参加には森村誠一展チケットのご提示が必要です。(上映会は除く)
※会場は特記のない限りすべて市民文学館2階 大会議室です。



ホテルマンとして勤務していたニューオータニの前で

講演会

大沢在昌講演会 ミステリーと私

1990年代より日本のエンターテインメント小説を牽引する作家・大沢在昌。代表作「新宿鮫シリーズ」をはじめ一貫してエンタメに拘り、良質の作品を生み出してきたその創作秘話を語ります。

講師：大沢在昌(作家)

日時：11月1日(金) 19:00~20:30

会場：町田市民フォーラム 3階ホール

定員：100名(申込順)

申込方法：10月8日(火)正午から10月30日(水)まで

イベントダイヤル(042-724-5656)または

イベシスで受付(イベントコード：241008C)

座談会

森村誠一のいた1970~80年代 角川文化をめぐって

サブカルチャー評論で知られる1984年生まれのTVODの二人が、まだ生まれてもいなかった1970~80年代の「あの頃」について角川文化をキーワードに読み解きます。

また、「あの頃」は多感な中学2年生。角川映画には馴染まないと誓いながら「原田知世」とときめいたという町田発の独立系文芸創作誌「ウィッチンケア」編集長の多田洋一氏がナビゲーターを務めます。

出演：TVOD(コメカ+パンズ)×多田洋一

日時：11月4日(月・振休) 14:00~15:30

定員：80名(申込順)

申込方法：10月8日(火)正午から10月30日(水)まで

イベントダイヤル(042-724-5656)または

イベシスで受付(イベントコード：241008F)

講演会

森村誠一のいる2時間ドラマ 土ワイ&火サス全史

——土ワイ派か、火サス派か。ミステリを家族の娯楽にまで広げた2時間テレビドラマ。

森村誠一原作の人気シリーズ「終着駅」「棟居刑事シリーズ」「刑事の証明」をはじめ、2時間ドラマの歴史や人気シリーズ誕生の背景について語ります。

講師：大野 茂(阪南大学教授)

日時：12月7日(土) 14:00~15:30

定員：80名(申込順)

申込方法：11月8日(金)正午から12月5日(木)まで

イベントダイヤル(042-724-5656)または

イベシスで受付(イベントコード：241108D)

講演会

角川映画 メディアミックス時代の夜明け

「読んでから見るか、見てから読むか。」

「犬神家の一族」(横溝正史/原作)、「野性の証明」(森村誠一/原作)、「セーラー服と機関銃」(赤川次郎/原作)など、文庫本出版と映画化のメディアミックスによって、ヒット作を次々と世に出した角川書店。角川映画初期(1975~1985年)の黄金期を語ります。

講師：中川右介(評論家)

日時：11月2日(土) 14:00~15:30

定員：80名(申込順)

申込方法：10月8日(火)正午から10月30日(水)まで

イベントダイヤル(042-724-5656)または

イベシスで受付(イベントコード：241008D)

映画 上映会

森村誠一／原作「野性の証明」

「お父さん、怖いよ。何か来るよ。大勢でお父さんを殺しに来るよ。」

かつて、特殊部隊に所属した男(演：高倉健)と、一村虐殺事件から逃れた少女との仮の家族。少女を演じるのは本作が映画デビュー作となり、後に角川映画を代表するヒロインとなる薬師丸ひろ子。

日時：11月30日(土) 18:30~21:00(上映時間143分)

会場：町田市民フォーラム 3階ホール

定員：100名(申込順)

協力：公益財団法人 角川文化振興財団

申込方法：11月8日(金)正午から11月28日(木)まで

イベントダイヤル(042-724-5656)または

イベシスで受付(イベントコード：241108B)

朗読劇

森村誠一／原作「雪の絶唱」

最期の不倫旅行ででかけた飛騨の旅先で見えたものは…。短編作品の名手としても知られる森村誠一が描き出す、男と女の逃れられない哀切な運命を朗読劇でお届けします。

出演：朗読劇かわせみ座

日時：12月15日(日) 14:00~15:00

定員：60名(申込順)

申込方法：11月8日(金)正午から12月12日(木)まで

イベントダイヤル(042-724-5656)または

イベシスで受付(イベントコード：241108E)

映画 上映会

森村誠一／原作「人間の証明」

「母さん、僕のあの帽子どうしたでしょうね……」

原作は西條八十の詩の一節にヒントを得て執筆され、発行部数累計770万部を数える森村誠一の代表作。推理小説は「読者参加型の知的ゲーム」と考えていた森村が、論理では割り切れない「母子の情愛」をテーマに描いた新しいミステリ。刑事・棟居弘一良を演じるのは今年生誕75周年を迎える俳優・松田優作。

日時：11月3日(日) 18:30~21:00(上映時間132分)

会場：町田市民フォーラム 3階ホール

定員：100名(申込順)

協力：公益財団法人 角川文化振興財団

申込方法：10月8日(火)正午から10月30日(水)まで

イベントダイヤル(042-724-5656)または

イベシスで受付(イベントコード：241008E)

座談会

わたしたちの森村先生！ — 知られざる創作者の素顔

小説講座山村教室の名譽塾長として後進の指導にも取り組んだ森村誠一。森村を慕う山村教室出身の作家で結成された「ケルンの会」のメンバーを迎えて、師の知られざる平素の姿について語り合います。

出演：ケルンの会(坂井希久子、千葉ともこ、

成田名瑠子、西尾潤、美輪和音)

日時：12月1日(日) 14:00~16:00

定員：60名(申込順)

申込方法：11月8日(金)正午から11月28日(木)まで

イベントダイヤル(042-724-5656)または

イベシスで受付(イベントコード：241108C)

公募

写真俳句コンテスト

写真俳句とは、写真と俳句、川柳など五七五の十七音から成る日本語の定型詩を組み合わせた新しい表現世界です。森村誠一の提唱した写真俳句に、あなたも挑戦してみませんか？

コンテスト詳細は写真俳句連絡協議会HP、町田市民文学館HPをご参照ください。

作品募集期間：

2024年10月15日(火)~11月10日(日)

応募方法：

コンテスト公式ホームページからのオンライン応募

※入選作品は12月1日(日)

コンテスト公式ホームページにて発表します。

主催：写真俳句連絡協議会

後援：町田市民文学館ことばらんど

<https://shashin-haiku.org/2024/>



森村誠一展関連イベント

※イベントの参加には森村誠一展チケットのご提示が必要です。
※会場は特記のない限りすべて市民文学館2階 大会議室です。

EVENT

謎解き
体験

スケザネプレゼンツ

「森村誠一からの挑戦状!」

実施期間:

2024年10月20日(日)⇒12月22日(日) 10:00~17:00

※ただし、10月27日(日)、11月3日(日)の観覧無料日は除く

◎展示室有料入場者であれば、どなたでも参加可能です。
ただしお一人様1回に限ります。

◎賞品:全問正解された方(先着300名様)に、
森村誠一旧蔵図書の中から好きな本を1冊
プレゼントします。

※本のタイトル、冊数には限りがあり
ご希望に沿えない場合があります。ご了承ください。

企画・制作:渡辺祐真(スケザネ)



展示
解説

担当学芸員による 展示解説

10月20日(日) / 11月17日(日) / 12月22日(日)

各日14:00から(40分程度) ※展示室に直接お越しください

公募

愛するまちだフォトコンテスト2025 写真俳句部門新設しました!

募集中~2025年5月6日(火)

お問い合わせ先:愛するまちだプロジェクト事務局
(一般社団法人 町田市観光コンベンション協会内)

土・日・祝日を除く平日9:00~17:00

✉ info@machida-guide.or.jp

詳しくはQRコードへ



東海道新幹線のホームで 1970年代

短期集中
講座
(全2回)

スケザネ先生と読むミステリ入門 「もっと知りたい!森村誠一」

書評家・youtuberとして活躍するスケザネ先生と一緒に森村作品を読み解きます。

第1回:日本の戦後ミステリ史概観

第2回:ミステリコンテンツの多様化時代

講師:渡辺祐真(スケザネ)

日時:

第1回 11月23日(土・祝) 14:00~15:30

第2回 11月24日(日) 14:00~15:30

定員:80名(申込順)

*二日とも参加できる方

申込方法:

10月15日(火)正午から17日(木)19:00まで

イベシス(インターネット)で先行受付

(イベントコード:241018B)

10月18日(金)正午から11月20日(水)まで

イベシス&イベントダイヤル(042-724-5656)で受付

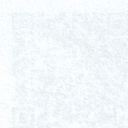
町田市民文学館ことばらんど

〒234-0013 東京都町田市森田4-16-17

TEL:042-739-3420 FAX:042-739-3421

JR横浜線町田駅タ〜ミナミ3口から徒歩8分

小田急線町田駅東口から徒歩12分



machida kotoba
で最新情報配信中

